

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当時職員全員で考えた理念を元に新しい職員にも入社時にきちんと説明し理解してもらうように研修している。また、ユニットの目標、そして毎月の目標を立てて、取り組んでいる。		開所当時職員全員で考えた理念を元に新しい職員にも入社時にきちんと説明し理解してもらうように研修している。また、ユニットの目標、そして毎月の目標を立てて、取り組んでいる。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時(申し送り時)に唱和している。また、毎月、月初めにその月の理念を職員が順番で考えている。今月の1年間の目標～人のために、思いをはせ人間的成長を～を目標に全員ケアの向上に努めている。		僕らは楽舎の放送部を出雲市グループホーム協会職員研修会にては発表し賞を頂いた。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の寄り合いや、地区福祉協議会定例会などに参加し、グループホームの理念、地域へのグループホームの役割などをお話したり楽舎新聞を定期的に発行して配布し、理解して頂けるよう取り組んでいる。		地域の寄り合いや、地区福祉協議会定例会などに参加し、グループホームの理念、地域へのグループホームの役割などをお話したり楽舎新聞を定期的に発行して配布し、理解して頂けるよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの小学校、幼稚園、大正琴のサークルの方々など入居者と交流している。小学生の登下校の見守り隊も入居者さんが日々の役割で1年間続けておられます。ボランティアの方もお茶も続いております。		今後も、引き続き地域の方に気軽に、立ち寄ってもらうに取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年続けている。福祉フェスティバルへの参加、幼稚園の運動会、今年度は地域のスポーツ大会にも参加し、地域の方々との交流を続けている。今年はチャリティープロレスラー慰問も地域の高齢者から子供まで施設にたくさんの方々を足を運んで下さいました。		これからも、入居者の方が地域に溶け込んでいけるよう取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>福祉フェスティバルにて、音楽療法、フラワーアレンジメント、アニマルセラピーなど通して認知症予防、理解に努めている。</p>		<p>これからも、継続して参加して頂ける様に取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は、前回は今回も同じく職員全員で分担して書き込み、全職員で話し合い理解し取り組んでいる。前回の改善点、居室馴染みの物の充実については家族への依頼など協力して頂ける様にしている。</p>		<p>居室が、複雑だと混乱する方もあるので、さっぱりしているところもある。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回必ず運営推進会議を行い、ケアの方針や内容、認知症への理解をして頂くように努めている。メンバーも地域、家族など固定せずに意見をケアに反映させている。</p>		<p>家族やより多くの地域の意見を取り入れている。情報提供もきちんと報告している。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市、グループホーム連絡会へ参加したり情報提供を取り寄せている。又、赤い羽根共同募金や研修会等に積極的に参加し、相談の機会を設けている。</p>		<p>市町村事業に今年も参加し、相談や情報など話す機会を設けている。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会に積極的に参加している。</p>		<p>成年後見制度なし。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>カギを掛けない方針である。身体拘束はしない方針である。必要な時はきちんと御家族様に説明し、同意を得る事になっている。身体的拘束のマニュアルがあり、管理者、職員は研修等に全員が身体拘束に対する理解を徹底している。</p>		<p>グループホームの支援方法の理念でもあるように、身体拘束が必要な状況が発生したら24時間シートを使用したり、アセスメントにポイントをスタッフを中心に話し合い、管理者、ケアマネにて支援方針を決定している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書にきちんと記入し、入所時、入所後もその都度状況に応じて説明し、理解して頂いている。説明を行う時は、管理者、ケアマネなど必ず2人体制で説明しており、質問に適切に返答できる様に努めている。</p>	<p>記録で残している。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議でも、入居者の方や家族に気軽に意見を言ってもらえる様に心がけている。面会時にも、こちらから声を掛けたりお茶だしする時などに、意見苦情などないか話せる機会を設けている。</p>	<p>家族には運営推進会議や面会時など意見を言ってもらったり、話をしている。意見箱も玄関に分かりやすい所に設置している。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回入居者の日々の様子を、お手紙にて家族へお知らせしている。手紙と一緒に、その月のおこづかい出納帳(一覧)や、ホームで何かある時にはあいさつ状や案内を出すなどして報告を継続している。</p>	<p>「こんにちは楽舎です」というホームの新聞を作成し、家族や地域の皆さんにも日常の様子が分かる様にしている。(手紙と一緒に送っている)行事や日頃の様子はいつでも見られる様にアルバムを誰もが見られる場所(玄関、ホール)へ置いている。また、健康診断やインフルエンザのコピーも送付している。それと全事業所、全家族へ「1年間元気に過ごせてありがとう会」を出席していただき、社長、管理者、居担が個別に話が出来る様な場所を設けている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情処理の中で、第三者委員を楽舎取締役社長と家族会の会長を任命している。気がかりな事や不安な事など気軽に声を掛けて頂けるよう心がけている。</p>	<p>現在は、苦情や不満はないですが、引き続き心がけていきたい。第三者委員の選出については、現在外部の方(近隣の警察官の方)にして頂ける様に、思案中である。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>第1火曜日19時から月に1回職員研修を開き、意見や提案を聞く機会を設けている。運営者、管理者は職員の個人面談を行い、意見や提案を聞いて反映させている。運営者は、定期的又は、飲み会など時間の許す限り、顔を出して職員との交流に努めている。(人事考課あり)</p>	<p>月に1回職員研修を開き、意見や提案を聞く機会を設けている。運営者、管理者は職員の個人面談を行い、意見をいいやすいようにそして反映させている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員はお互いに勤務の調整について、理解、納得しており、要望に応じて柔軟な対応が出来る様に、必要な時間帯に職員が確保されている。</p>	<p>今後も継続していきたい。希望休の取り入れを実施している。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係を大切に、ユニットの移動や担当は出来るだけしないようにしている。ホームの職員の移動は最小限に努めており、また退職者も少ない。</p>	<p>今後も継続していきたい。移動があった時にも対応出来る様、合同行事などで顔なじみの関係作りをしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>その場で個々に合った言葉、声かけで指導するよう努めている。研修についても、見合った内容を見極め、勤務中に研修参加させ、できるだけ職員の負担にならない様にしている。また、研修参加しやすい様内容を回覧に積極的参加促している。内部研修も毎月行い、職員の意識を高め、ケアのレベルアップに努めている。</p>	<p>今年度、ヘルパー、防火管理課程の修了、更新研修、介護予防指導士、各外部研修。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部での研修に出来るだけ参加するようにしている。グループホーム連絡協議会の勉強会、研修に積極的に参加し楽舎で行ったケアの取り組みについての発表し、会長賞を頂いた。(杜～僕らは楽舎の放送部～) 毎月1回必ず職員会を設け、全職員(パートも含め)参加し議題を決めて、職員全員で取り組みケアの向上に努めている。</p>	<p>同業者との交流を引き続き行い、お互いがよい刺激を受け合い、職員の質の向上を図りたい。他の施設の総合訪問あり。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員が互助会を作り、新忘年会はもちろん、大きな施設行事の後にはお互いに慰労し、飲み会をしている。今年も楽舎として「泥田バレー」に参加して、大笑いして楽しみ、職員間の親睦、絆も深まった。また、互助会(1ヵ月1回)の出来合いもあり、又、社長からの年末のお楽しみ券も配布され、楽しんでいる。ユニフォーム代として年2回支給したり、福利厚生にも力を入れ、職員働きやすい職場作りに努めている。個人評価あり、管理者評価あり、それぞれの様式に記入しそれを元に面談をしている。</p>	<p>職員から直接、意見を聞く機会を設け、働きやすい職場作りに努めている。又、希望休も取り入れている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、年1回個人面談を行い、それぞれの意見を聞き取り、人事考課に反映している。管理者から、職員の様子の報告を受け、個々の研修参加の復命書を把握し、手当として反映して各自の向上に努めている。</p>	<p>個人面談による1年に1回の人事考課に反映している。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受けてから、本人が入所に対して納得がいくよう、本人の了解を得て、何度でも訪問できる体制を整えている。1人でなく現場の職員も同行し、顔なじみとなり安心感を持っていただき、本人の思いを素直に話せる相手として認めてもらうよう努力している。傾聴に努め、言葉に表せない内面も表情や動作から組み取るよう努めている。</p>	<p>入所までに顔なじみの関係を築き、初期の段階で頼れる職員がいて安心をして過ごせると思われるような信頼される職員を目指して寄り添い傾聴の姿勢を基本にケアに努めたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に関わりのある居宅ケアマネ、サービス事業所から情報収集し、家族に不安、困り事を事前に把握した上で家族と面会し、アセスメントを行っている。入居者の方が安心して過ごせる場所である事を、細かく説明し、疑問があれば、いつでも来苑、電話を受ける;体制を整えて、納得されるまでお話を伺うようにしている。</p>	<p>入所されるまでに、顔なじみの関係を築き、いつでも相談を受けている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現場スタッフの含めた2名で面談し本人、家族だけでなく、本人に関わりのあるケアマネ、医師を含めた関係者と必ず連絡をとり、話した上で職員会議を行い必要な支援を努めている。		ケアマネ、医師等関係者との連絡をとり、本人が必要としている支援を、職員で話し合いに努める。職員は常に勉強し、日頃からの情報を得るように努めたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学やお試し入所など、馴染みの関係作りをしている。家族から馴染みの物(箸、コップ、茶碗など)を持ち込んで頂いている。		前回の外部評価で改善する点の中で、居室の充実(馴染みの物)を家族に協力して頂く様にお話しや相談をしているが、本人の状態やレベルで充実していないのが現状である。本人が、家で使用していた物(イス、ラジオ、カレンダー、布団など)は持ち込んで頂いている。居室が複雑だと混乱する方もあるので、さっぱりしてあるところもある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作り、片付け、掃除や洗濯など、一緒に日常生活を過ごしている。入居者の方や職員も、得意な事出来る事をお互いに分担し協力してやっている。西舎の、ケア理念でもある～喜怒哀楽の人生を味わい深めましょう～を職員が思い日々笑ったり、怒ったり・・・支えあう関係を築いている。		時に楽舎での、お父さんだったり、音楽の先生だったり、料理を教えてください優しいお母さん、おばあちゃんなど職員が人生を教わる沢山の場面があります。1日の時間の中で、ゆっくり話をする機会を持ち思いに寄り添い接している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際にはお茶をお出し、日々の生活の様子等をお話ししている。毎月家族へ手紙で、本人の様子を伝える支援をしている。楽舎での行事には、家族へ案内文を出し、出来るだけ参加して頂き共に楽しい時間を過ごして頂いている。病院への受診は、基本的には家族の付き添いをして頂く事にしており、受診後に家族からの情報を受けることにしている。		楽舎での行事には、必ず家族に案内文を出し出来るだけ参加して頂き、楽しい時間を大切にして頂いている。お正月、お盆には、外出、外泊をいつでもして頂いている。また、24時間面会出来る体制にしているため、家族との時間やつながりを大切にして頂いている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	運営推進会議、楽舎の行事、消防訓練などにも参加して頂き、日頃からいつでも過ごして頂ける時間を設けている。		12月にある、楽舎の最大の行事～1年間ありがとう会～では、家族との絆をテーマに毎回入居者さん本人と、家族そしてスタッフで会を作り上げている。これからも、入居者本人と家族のより良い関係が築いていけるよう、日々ケアに努め、そしてまたこの会が心に響く感動的な会になるように皆で取り組みたいと思います。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節ごとに(暑中見舞い、年賀状、お手紙)友人や家族へ送付したり、電話をかけたたりし大切にしてきた方との関係が途切れないように支援している。		本人の馴染みの方との絆をこれからも大切にしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いの居室を行き来し、夜にはお茶会をしたり、歌謡ショーをテレビで見たり、日常生活などの話をしたりと入居者同士が関わり支えあっている。		引き続き入居者同士の関わりを大切にしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族と管理者とで連絡を取り合い、退所後も状況を把握して付き合いを大切にしている。また、職員もお見舞いに定期的にいき、元気な姿を喜びにしている。		今後も退所されてからの関係を大切にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、ご家族、本人の意向についてそれぞれの思いを聞き、感じとり、ケアプランに反映させるようにしている。また、生活の中で寄り添い、本人がどのように暮らしてきたのかを組み取り支援に行かせるよう努めている。本人から聞き取りが困難な場合は、ご家族に伺ったり、共に生活する中で、その方らしい生活を見出し、笑顔を求めたケアに努めている。		①入所前担当者会議を行う(入居前の情報収集)②暫定ケアプランを立てる。③本人のポイントを抑えたイメージを作る。④記録をする。その時分かりやすい言葉を使う。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族に入所前に詳細にこれまでの出来事、趣味、嗜好等記入頂き、直接聞き取りも行っている。それを全職員が把握するように努めている。また、普段の会話の中で過去についての発見も記録して、職員で共有して入所者の新たな面を再認識し合い、ケアにつなげている。他のサービス事業者からの情報も頂くようにしている。		個人の生活歴やこれまでの暮らしを知ることで敬意を深める事ができ、本人の内面をも組み取る事ができ、より利用者本位のケアにつなげることができる。また、入所前の自分を職員は分かってくれているという安心感につながり、信頼関係も築きやすくなるので、一層の努力をしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々のカルテの中にも心身の状況を評価する欄を設け、毎日記入するようになっていく。また、ユニットごとにBT水補量等一目で分かる表もある。特に体調を崩し、気になる方には特別に記録できるよう用紙も整えている。日々の記録をえに、日常生活の中で得意な事を見つけ、役割、生きがいにつながるような視点を持ちケアにあたっている。		毎日職員が一緒に記録する時間をユニットごとに設け、気のついた事を話し合い、共有しながら記録をとっている。心身異常の早期発見、また出来る事をより伸ばしてあげられるような視点で記録をしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の気持ちに即した生活の実現に向けて、本人、家族と一緒に話を伺い、これまでの生活を出来るだけ取り入れるよう努めている。また、かかりつけ医、居宅ケアマネ、時には親しい近所の方から意見を頂き、その情報を元に職員で課題を明確にし、分析して自立支援に向けた介護計画を作成している。		入所前に本人が関わってきた方達から情報を出来るだけ多く入手して、十分なアセスメントを行い、利用者の意見を尊重した介護計画を作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し時期には居担が本人、家族から今の生活での意向を聞き取りカンファレンス前に居担の考えをまとめ、カンファレンスを行っている。また、特変があった時には、カンファレンスを行い、個人の24時間シートで細かく記録している。一方で家族、担当医と密に連携をとり、状態の変化を随時報告し、本人の状態を共有して、その方に合った生活を送って頂ける様、計画書に追記したり、変更したりして支援につなげている。		①暫定ケアプラン二週間②モニタリング③新しい情報アセスメント④ケアプラン、6ヵ月後モニタリング、ケアプランその後1年。特変ある場合、常に会議を行いモニタリング、ケアプランを継続して行いたい。24シート、個々の状況シートを作成しこれからも使用していきたい。(体重、血圧、排尿他)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、昼、夕と記録を取っている。介護計画を毎日の記録に入れており見やすいようになっている。毎月ケアプランも評価出来る様になっている。各ユニットごとに見直し職員で話し合いをし、情報を共有している。		日々の気づき等を、毎日の記録に残し、個々の介護計画に入れこれからも、情報を共有していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じ受診や買い物、地域行事への参加など行っている。家族もいつでも一緒に泊まって頂ける様になっている。		外出支援(買い物、お花見、外食、行事参加等)を引き続き行っていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回の消防訓練や地域行事への参加を行っている。毎朝必ず入居者の方と小学生の登下校の見守りを行っている。小学校・保育所の子供たち、琴のボランティア、生け花、抹茶のボランティアなど様々な方との交流がある。		引き続き地区行事への参加、小学生の見守り、小学校・保育所、沢山の方々との交流を続けていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅のケアマネジャーと連絡を取り合い情報交換を行っている。また、事業者とも話し合いを持ち入居者に合ったサービスがあれば利用している。		常に連絡を取り合いお互いの情報交換をしていきその方に合ったサービスを利用し支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護の研修に行き、つき1回職員研修にて職員への研修を行っている。地域包括支援センターさんと介護予防について話し合ったり、福祉フェスティバルなどに共に良い関係で協力している。		引き続き指導をもらい、月1回の職員研修を行ってきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の方が、入居前よりかかっているかかりつけ医を継続し、楽舎での様子を手紙等でお知らせし適切な医療を受けられるように支援している。		入居前に面談し、かかりつけ医より指示を頂いている。かかりつけ医との関係を継続しながら、入居者がより良い医療が受けられるよう続けたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医や専門医と情報交換を行い、必要時情報提供書の送付や電話での問い合わせを行っている。</p>		<p>かかりつけ医や専門医と情報交換をし、入居者がよりよい治療が受けられるよう支援していきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>往診時に同行の看護師に日頃の状態を報告すると共に医療面での必要な声を相談し、継続した支援を行っている。</p>		<p>入居者の方がよりよい医療を受けられるよう今後も看護師や地域連携の方と関わっていくように努めたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院された時は、家族、担当医、職員を含め話し合い、病院との情報交換を行っている。退院時には、今後の生活等について話し合っている。</p>		<p>入院から退所まで家族、医師との話し合い、入居者がよりよい医療を受けられるよう関係者と連携を密にしていこうに努めていきたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>かかりつけ医、家族、ケアマネ、職員と話し合い、今後の方針を決めている。必要な時にはかかりつけ医から、家族へ説明を行っている。段階に応じて対応していく。</p>		<p>国の指針を見極めながら、検討していきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>医療行為が多くなる場合、かかりつけ医、ケアマネ、家族、職員を含めて話し合いを行い、可能な事、不可能な事を見極め、今後の支援方法を検討している。(マニュアルあり)</p>		<p>国の指針を見極めながら、チームとして支援可能な事、不可能な事を明確にしていきたい。現在101歳の方を入居者さんを含め皆で、見守っていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族、かかりつけ医、ケアマネ、職員と共に情報交換を行い、新しい環境に早く慣れるよう働きかけを行う。</p>		<p>十分な話し合いや情報交換を引き続き行っていきたい。楽舎の思いでアルバムを制作し、思いと状況を送っている。今後も続けていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その方の個性、人格を大切にしている。記録物は持ち出し禁止。本人のプライバシーが保たれる様にしている。名前の記入はせず、暗号、記号にて印をしている。	入居者への声がには、尊重を守って接するように気をつけている。方言は時によって使うが、馴れ合いにならない様に気をつけていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	思いや、希望、話しやすいように職員は、優しく声掛けするようにしている。	その方に合わせて、分かりやすく言葉を選んで話したり安心して暮らして行ける様に統一した言葉がけや意志決定の出来る様にしてさしあげている。(落ち着かれる洋服、お茶のとき飲みたい希望をきいて、食べたい物等)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れはあるが、入居者の体調、ペースに合わせて自由に過ごして頂いている。	その方の体調、ペースに合わせて、買い物に出かけたり、季節の行楽行事等にも自由に出かけている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みのパーマ店、床屋などへご家族と行かれたり、月1回の移動美容室に来て頂きご希望の形や色にしてもらい、おしゃれをして頂いている。毎朝の整容支援、ヒゲソリ、爪きり、耳掻き、時にはマネキュア、お化粧をしたり日頃から楽しんでいる。	月1回は、理美容をして毎日きれいに過ごして頂きたいので、続けて支援したい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	作り方を先輩に教わりながら共に楽しんでいる。「食べたいものは何かありますか」と聞いたり、献立を一緒に考える。誕生日、季節の行事「春の彼岸はぼた餅、秋の彼岸は、おはぎ・・・」と言いながら楽しく食事をしている。	その日の台所での調理臭い等で「今日は何のご馳走でしょうね」と話しながら楽しみにしている。毎食前には、口腔体操をして美味しく食べれるように支援している。エプロンも使わず、オシボリを使ってきれいに食事が出来る様支援している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	常備お茶を用意していつでも飲めるようにしている。朝は冬はこたつで朝茶を飲み「一杯茶はだめよ」と言いながら2杯づつ。日常的に、いつでもお茶会が出来る様にしている。お菓子もその都度。お酒タバコは家族、本人と相談をし量を決めている。	以前は、定位置を決めて職員と一緒に見守りしながら危なくないように楽しんでもらっていた。現在は吸われない。お酒に関してはお正月などは皆さんで嗜めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		<p>排泄リズムを知り、失敗が少なくなる様引き続き支援していきたい。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>寝る前に足浴をして温まって頂いたり、陰部だけでもシャワー浴をして頂いたり、一人一人に合わせて引き続き支援していきたい。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		<p>入居者の方が、安心して休める様に引き続き支援していきたい。</p>
<p>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</p>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>これからも生活歴から、その人の好きな事を聞き手芸、生花、絵画、習字などをして頂いたり自由に散歩やドライブなど続けていきたい。</p>
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		<p>外出した時には、自分の欲しいものを、お小遣いから買い物して頂いたり、希望があればいつでも自分のお金で買物が出来る様、引き続き支援していきたい。</p>
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		<p>体調、天候などを考慮し、外出可能であれば、希望に沿って引き続き支援していきたい。</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		<p>季節に応じた外出を引き続き支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられる様になっており、職員室から本人の望む人への電話の支援を行っている。その際、職員も少し会話の中へ入らせてもらいグループホームでの生活の様子を伝えるようにしている。また、その時にも情報収集している。手紙を書かれた時は、一緒に郵便局まで行くなど手紙の支援もしている。		家族や兄弟、知人の声を電話で聞かれる事で安心してもらえる様引き続き電話、手紙の支援をしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者が合った時は、いつでもお茶が用意でき寛げるように支援している。		継続して支援していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会など職員間で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ベット柵については、安全を第一に考え転落、転倒防止の為家族の了解のもと柵をしている。		ベットについては、2本柵のみしている。身体拘束のある方は現在なしである。引きつづき取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはカギをかけず、自由に出入りが出来る様にしている。居室の窓もオープンである。		引き続きカギをかけない支援をしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフルームから入居者一人一人の様子が把握しやすい作りになっており、思いのままに過ごして頂いている。		居室へ入る時は、必ず声をかけてから(ノックも)入るようにしている。夜間は頻回に巡回を行い所在確認をしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	段差などテープを付け分かりやすくしている。居室においているタンスのコロなど転倒の危険がある場合、家族との話し合いのもと取り外す事がある。		自傷行為のある入居者の方の場合、台所の包丁などカギのある所で保管している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応について、職員研修を行っている。ヒヤリハットを書くように職員間で話し合い、再発防止に努めている。		一人一人に合った運動をし転倒防止に努めている。今後も外部、内部研修に参加し知識を深めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署からの救急法、AED装着方法、初期対応の訓練を受けている。また、緊急時についてのミーティングを行い緊急に備えている。		今後も定期的に消防署の方に来て頂き、訓練を行ってきた。よく見える場所に「誘導アセスメント表」を掲示している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災担当者がマニュアルを作成し入居者の方を無事避難出来る様に訓練している。駐在所、自治会に協力得られるよう働きかけている。運営推進委員会にて、火災訓練を一緒にやり意見交換し、協力を得働きかけている。		消火器の場所、本数の確認など職員は把握している。情報テレビ等にて確認するようにしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクについては、契約時に説明している。かかりつけ医、ケアマネ、職員と話し合い家族に説明し、話す機会を設けている。		ヒヤリハットを書き、反省文を書いたり、半月後とに集計し職員で研修の時など話し合い、今後の事故防止に努めている。(状態の変化、リスク等について)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全員の起床時のバイタルチェックにて変化の観察。申し送り時、報告する、話し合い、異常時、看護師、管理者に報告。往診先のかかりつけ医へ報告、指示を受けている。		体調変化の早期発見に努めて、かかりつけ医につないでいる。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬目的、副作用、用法、用量の理解。薬事提供の把握。変化時はきちんと申し送り、情報交換、把握に努めている。		全職員が見れるように、薬のチェック表を作り、薬の把握が出来る様に努めている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質、野菜を沢山取るようにしている。水分にも注意している。毎朝体操をしたり、歩け歩け運動したり身体を動かしている。		一人一人にあった便秘予防を行っている。排便のコントロールをしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア(歯のない方はうがい)出来ない方は必要な支援を行っている。		ポリデント、モンダミン、ブラッシング、その方に合った支援をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量、水分量には気を付けており「介護録」をつける事により把握できている。栄養は6つの基礎食品をバランスよく確保できている。入居者個人に合わせた柔らかめのご飯、お粥、キザミ、トロミなどにしたり、食事時間も個人に合わせ支援している。</p>	<p>毎日の食生活を大切に。一人一人のニーズに応じて支援していきたい。1日の食事、水分摂取量を「介護録」に記入している。そして看護師につなげている。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルがあり、手洗い、うがい、手すり等のアルコール消毒(次亜塩酸ナトリウム)をきちんと行い、感染症予防に努めている。入居者、職員全員がインフルエンザの予防接種を11月に受けている。疥癬、血液、汚物類必ず手袋を使用し感染予防に努めている。右の事に関するナース会議をし、ナースより全体の職員会議を行っている。</p>	<p>玄関にマスク、手消毒を常設し、感染予防の貼り紙をしている。来苑された方に協力をお願いしている。今後も感染予防に努めていきたい。</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>毎食後、食器や調理器具を塩素系ハイターで殺菌、漂白を行い、衛生管理に努めている。食材は出来るだけ地元産の新鮮で安全な食材を使用し必ず熱を通してから使用している。</p>	<p>食洗器を使用している。なるべく新鮮で安全な地元で取れる食材を食べて頂いている。食中毒にならない様、衛生管理を引き続き徹底していきたい。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関周りの花壇には、入居者の方と植えたお花が季節を問わず咲いている。また、地域のボランティアの方が花を生けて来てくださったり、玄関は明るく入りやすい雰囲気になっている。目での支援も含め、季節の花(チューリップ、向日葵、コスモス、シクラメン等)を植え、季節を感じて頂いている。</p>	<p>草取り、落ち葉、枯花等きちんと掃除をして、玄関周りをきれいにし今後も四季折々の花を絶やすことなく入居者の方と植えていきたい。</p>
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂、台所など家庭的な雰囲気であり、ソファやテーブル(冬はこたつ)が置いてあり、入居者は思い思いの場所でくつろいでいる。また、畳みスペースを設けており、休む事もできる。食堂も廊下も暖かい日差しが差し込み、廊下ベンチでは入居者が井戸端会議をして楽しめるようにしている。トイレ、浴室は内装を白で統一し、随所、随所に手すりを設け、安全性に配慮している。</p>	<p>おかめ、出雲百歳パネル飾りが、空間に馴染んでいる。の玄関や、ホール、廊下には、入居者の方々が作られた四季にちなんだ作品を飾ったりして、その時の季節の話しながら季節感を散じられるようにしている。</p>
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂(ホール)にはソファ(冬にはコタツを出す)が設置しており、仲の良い入居者同士でお話しながら過ごせるようにしており、畳の空間を利用して個々が過ごせる居場所の確保に努めている。</p>	<p>居室でのみ守りが困難な場合、畳のスペースで24時間見守りの必要な101歳の方を、入居者さんを含めた皆さんで見守っている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族とよく話をし、暮らしておられた部屋等の話を聞き、馴染みのある家具を置くなどして、本人が生活しやすいように物の配慮などしている。		本人の使いやすい家具などを、これからも使用して頂ける様に引き続き支援していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	施設独特の臭いが出ないように、毎日の掃除(トイレ、居室)換気などを徹底している。その日の気候に合わせて職員が、冷暖房を調節している。ホールと廊下の温度差がない様に、常時扉は開放している。		居室も過ごしやすい様に、職員がこまめに確認し、換気等行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、廊下、トイレ、浴場など手すりがあり、安全に行動出来る様になっている。建物内は段差はなく、安全に洗濯物干しや、モップがけ等その方が、得意な事をして頂いている。		職員で、「もしかしたら、こんな物(所)が危ないかもしれない」入居者の方がどんな行動をされるか、環境について話し合い安全に生活して頂ける様環境を整えたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	張り物は全て入居者の方の目線に合わせており、見えやすい色や濃いさに書き、分かりやすい様に配慮している。居室にも大きな字で日程を書いたりして、混乱しないようにしている。		入居者の方が混乱されないように、分かりやすい行動しやすい環境作りをしていきたい。福祉用具の点検等行っていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日には日向ぼっこをしたり、お茶を飲んだりして過ごして頂いている。外には、花壇や畑があり職員と共に野菜や花を育てており、収穫も行っている。四葉のクローバーを探しに行かれたり、朝、晩の水やり、洗濯物を一緒に干したりと活用している。		入居者の方が日々、様々な活動を楽しんで出来る様に引き続き支援して行きたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域へ溶け込み福祉フェスティバルに毎年参加し、入居者の方、職員と一体になり作り上げています。フェスティバルでのフラワーアレンジメントで使用する花を楽舎で、種をまき、水をやり、いたわり、その思いを地域の方々に提供する事で、入居者の方の地域の貢献に繋がっていると思います。又、小学校の見守り隊（登下校）も1年間暑い日も、寒い日も毎日続けておられます。日々続ける事の努力と大切さを、子供達、職員にも教えて下さっています。今年の西のテーマは～思いのまま生きる～入居者さんの、個々を大切にして、生き生きと生活して頂けるよう共に、過ごして行きたいと思えます。1年間の目標である～人のために思いをはせ、人間的成長を～を職員が、日々思いケアに取り組んで行きたいと思えます。